



「『学びの変革』授業デザイン」 活用ガイド vol.1

～すべての子どもに資質・能力を確実に育成するために～

「『学びの変革』授業デザイン」は、現在ブラッシュアップ中です。
現在、県内の実践協力校に御協力いただき、この「『学びの変革』授業デザイン」を基軸にした校内研究を進めていただいているところです。
今回は、実際に活用していく中で見えてきた「気付き」や「変化」を御紹介します。



A 小学校の事例

「観」の共有による 共通実践の土台づくり



対話を通じて互いの「観」を共有することで、日々の指導の基盤となる共通の認識が深まりました。

同僚と「どんな子どもに育てたいか」を語り合い、自身の「観」を見つめ直すことは、子どもへの働きかけや関わり方を見直す大切なきっかけになります。

B 中学校の事例

チェックシートを週案に 添えた日常的な授業改善



チェックシートを週案に添え、日常的に目にすることで、授業を振り返る習慣が身に付きました。

「教師が話しすぎていないか」「見通しをもたせているか」などの具体的な振り返りの積み重ねは、授業の質を確実に変容させる原動力になります。

ここが聞きたい！ Q&A

Q: 「授業スタンダード」との違いは何ですか。

A: 「授業スタンダード」は、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に焦点を当てています。
「『学びの変革』授業デザイン」は、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、多様な子どもを誰一人取り残さないための具体的な改善の視点を示しています。

先生方のステージや各学校の実態等に応じて、どちらも効果的に活用してください。

C 中学校の事例

重点設定による 組織的な授業づくり



学校の重点を設定し、共通実践に取り組むことで、職員室での対話が活性化され、成果や悩みを共有しやすくなりました。

学校の実態に即した重点を定め、組織全体で一貫した指導に当たることが、教育活動の質を向上させ、すべての子どもに資質・能力を育むことにつながります。

先生方それぞれが、自らの課題に合わせて重点を設定し取り組むことも、授業改善に向けた実効性のある一歩となります。

実践協力校の先生方の声

「『学びの変革』授業デザイン」は、子どもの見取り方などが詳細に示されており、授業を構成する多くの要素が相互に関連し合っていることがよく分かります。これからの授業づくりの指針として活用することは、非常に重要な視点だと感じています。

「『学びの変革』授業デザイン」は、こちらの二次元コードから

